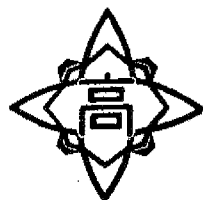


令和6年3月1日



第62号

発行 山形県立荒砥高等学校同窓会
事務局：県立荒砥高等学校内
〒992-0831 白鷹町荒砥甲 367
電話：0238-85-2171 Fax：0238-85-2823
URL <http://www.arato-h.ed.jp>
E-mail arato@arato-h.ed.jp

山形県立

荒砥高等学校同窓会報



20回を迎えた「荒砥高校吹奏楽部定期演奏会」
が盛大に開催される（長井市民文化会館）

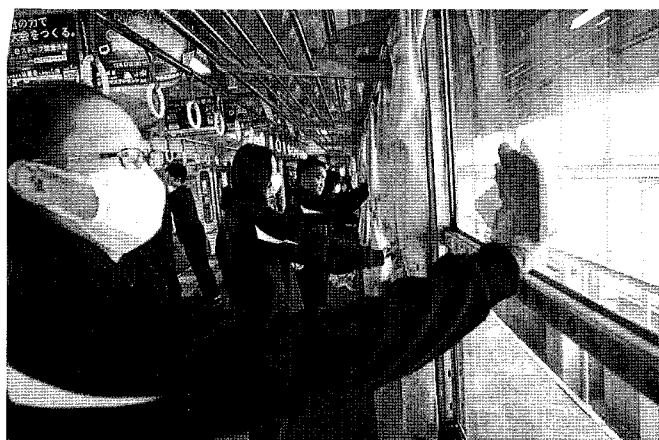
地域で活躍する
荒高生
あらこうせい



町内のパン屋さんとはコラボレーションして「白鷹
バーガー」を製造販売 白鷹町産業フェア 2023



紅花摘み 全校生でボランティア（十王地内）



フラワー長井線の車両清掃ボランティア

克己
復禮

同窓生総数
9,414名

念いたします。

本校で培った実力を遺憾なく発揮し、若々しく、雄々しく、それぞれの分野で成果を上げられるよう期待するものです。ベストを尽くしそれぞれの途に進捗してください。

洋々たる皆さんの今後のご活躍を祈念いたします。

さて、「能登半島地震」や、暖冬・降雪が少ないといったことは、卒業の年の出来事を振り返った時に、忘れることのないものになると思います。そして、荒砥高校での三年間を忘れずに自信をもって自分の希望に向かって歩んでください。

さて、「能登半島地震」や、暖冬・降雪が少ないといったことは、卒業の年の出来事を振り返った時に、忘れることのないものになると思います。そして、荒砥高校での三年間を忘れずに自信をもって自分の希望に向かって歩んでください。

さて、「能登半島地震」や、暖冬・降雪が少ないといったことは、卒業の年の出来事を振り返った時に、忘れることのないものになると思います。そして、荒砥高校での三年間を忘れずに自信をもって自分の希望に向かって歩んでください。



歓迎のあいさつ

同窓会長 青木 彰榮



コロナ禍を超えた一年

校長 地主 佳子

荒砥高等学校同窓会の皆様には、本校の教育活動に對しまして、日頃から物心両面にわたり、多大なるご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

今年度、本校は創立から七十五周年を迎え、定員いっぱいの新入生の入学とともに賑やかな令和五年度のスタートとなりました。五月には、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、授業や学校行事において再開したこと、形を変えたことなどが様々ありましたが、今年度も教育活動の充実に職員一丸となつて取り組んできたところです。今年も生徒たちの笑顔や成長の姿がたくさん見られました。

三行事の一つである荒高祭では、四年ぶりの一般公開、食品を扱う模擬店を実施することができました。PTAの皆様にも、焼きそば・カレーの販売をしていただき喜んで頼める生徒の笑顔がありました。二百名を超える保護者や地域の皆様の来

場により賑やかな学校祭にしていたできました。

また、今年はJRC加盟六十年を迎え、日本赤十字社から感謝状の贈呈を受けるという名誉にあずかりました。先輩方から代々受け継がれた生徒会や保健委員会のボランティアや地域貢献活動などが認められてのことです。小規模校ながら、日々の活動を地道に続けてきたことが認められ大変嬉しく思っています。三学期始業式の翌日からは、生徒会の発案で能登半島地震被害に対する義援金の募金活動にもいち早く取り組み、支援の気持ちを日本赤十字社にお届けしました。

令和六年度も、生徒一人ひとりが輝く学校をめざして、教職員一同教育活動に一層励んで参ります。同窓会の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、荒砥高等学校同窓会の益々のご発展と、皆様のご健勝をご祈念いたします。

三年間の思い出

新野 護

私にとって荒砥高校で過ごした日々は、思い出に残るかけがえのない三年間でした。

今振り返れば、毎日を仲間と一緒に楽しく過ごしたり、喜び合ったり、時には大変なことや厳しいことがありましたが、沢山の仲間とともに支え合いながら、壁を乗り越えることができました。

私は、部活動や委員会活

寄稿 卒業生から

自信を胸に新たな

環境へ

沖田 優菜

私にとって荒砥高校は沢山の思い出が溢れる場所、そして自分自身が大きく成長出来た場所でした。過ごしてきた日々を思い返すと、楽しかった記憶や辛かった記憶が蘇ります。そのどれもが、今となつては自分の成長に繋がっているのだと感じてい

動、学校行事などを通して沢山のことを学び、日常生活で沢山の人の関わりを持ち、過ごしていく中で人間的にも精神的にも、昔よりも成長できたと思います。そして、私が困ってしまつた時は、友達はもちろん、先生方や地域の人たちにも支えてもらった事に感謝しています。

私は地元を離れ、大学に進学し、新たな生活を送ります。ですが、今まで出会ってきた人達や自分が今まで学んできたことに感謝を忘

ます。私が成長できたのは支えてくれる先生方や笑って受け入れてくれる友達と出会えたからです。今後は環境が変わり離れてしましますが、この出会いに感謝を忘れずに過ごしていきたいです。

私は、4月から地元を離れて、東京で大学生として新たな生活が始まります。今までよりも大変な事や辛い事が待っていると思いま

れずに、自分が行く道を進んで行きたいと思います。



スポーツ祭での障害物競走



全校生徒が体育館に集合、新入生 40 名

すが、荒砥高校で得た自信や勇気を忘れずに、どんな事にも挑戦していきたいです。

「荒砥高校―深い慈愛に包まれた日々」 渡部 泰山

(元教職員)

初めて教師として赴任。

深い山の峰を山形市からバスで越えて、夕刻遅く白鷹町荒砥の街に着いた。蒼い群青のかすかな霞に煙る朝日連峰の山々が、水晶のように底光りしていました。街中の家々は身を寄せ合うようにたたずみ、まるで時間が止まっているような穏やかな時間が落ちていました。下宿先に着いた頃は、すでに夜のとぼりが落ち、不安と希望の交錯した切ない時間に私は包まれていました。

あれから51年の歳月が流れています。途方もない長い時間とも、閃光のような一瞬の刹那とも思えます。素朴で向学心に燃える生徒、幅広く豊かな心と学識を持つ先輩教師、縄文から刻まれた民俗、歴史、最上川の景観の豊かな地域を探索する在野の研究者の人々の深い慈愛に包まれた時空間が、新米教師を温かく包んでくれました。

教室の中には、私の拙い授業を鋭い感性の矢のよ

うな眼差しで受け止め、部活動で共に汗を流した生徒たちの青春が、まぶしく乱舞していました。夕刻、教室を回れば、窓から落陽が射してきます。椅子の下には、陽炎に射され未来時間と刻印されたボタンが落ちていました。あたかも螺鈿細工のごとく。

それからの私の時間は、「注文の多い料理店」の序文をまねて言うわけではありませんが、すべてみんな生徒、同僚教師、地域の民俗、歴史の勉強の仲間たちからもらって、積み重ねられたものです。生徒も含めて、あの時あの人たちに出会っていなかったならば、私の人間として、教師としての今を静思して振り返ることはできません。今の私は、随分老いも進んでいますが、記憶の紙に圧された明るいうつし絵のようにひらりとそよいでいます。

教育という世界の中で生き、多くの生徒や教職員と出合い、語り合い、そして別れ、その時間の堆積の中で、

自分の今を支えて明日を夢見る力を与えてくれたところの風景は、皆さんに感謝の思いで満たされます。

ところで、荒砥高校生ばかりではありませんが、日本の子どもたち、大人、地域を取り巻く風景、環境はこことくすさんで、深刻な社会状況が加速度をつけて露呈しています。人間と自然、共存、循環の学びの喪失は、教育に最もふさわしい「希望」「未来」ということを語りがたい時代を生きているとも言えます。荒砥高校を離れても、今を深く見つめ、何を振り返り行動し、未来からの留学生たちに、何を伝え、何を残していくべきなのか、そのことをずっと引きずってきたような気がします。

自然と共生する新しい白鷹・荒砥イムズの田園文化の創造という視点に立ち、私たちの日々の生活の営みが前進すれば、未来を生きる子どもたちへの最大



の贈り物になっていくと思います。現在を生きるということのうちに、その覚悟が問われているような気がしています。

荒砥高校での夢のよすがは、野の花の香りより、今でも深く々心に残っています。



同窓会関東支部総会に

参加して

副会長 守谷 丹吾

昭和47年度卒

昨年の春、支部長としてご尽力されていた菅野孝雄氏が逝去されました。ご冥福をお祈り致します。それに伴って新たに別府忠雄氏が就任し新役員体制での総会が十月七日開催され、青木会長と副会長、そして佐藤町長、学校側から教頭先生、観光協会佐藤副会長と共に参加しました。役員の方々は、昭和四十九・五十年年度卒を中心となって元気そのものを感じてきました。コロナ感染症が発生以来、事業や会議等も制限されてきたことから、参加者もコロナ前よりは少ないとの

事ですが、今後連絡の機会を増やし情報を発信して盛り上げていきたいという事に期待したいと思っています。

私の同級生も二人参加してくれて、四年ぶりの再会となりました。その後、宿泊先へ向かう途中のスクランブル交差点を渡る人の流れは蟻の群が動いているようで、夜中にも時々聞こえる緊急車両音に、私は都会の生活は合わないと感じてきました。

さて、今年度の荒砥高校の入学者は近年になく定員数を満たす事となり喜びました。総会の時、教頭先生から授業・生活・部活動の活気ある様子が報告されましたが、来年度も同じようになる事を期待します。この事は、高校が活気を増す事に繋がります。同窓会としても町としても大切だと思います。

話は変わりますが、大切な事のもう一つに白鷹町の名を全国に広めてくれている大相撲の白鷹山関の活躍は、町民はもちろん中学生や高校生の元気の源となると思うので、怪我無く上位に昇進する事を期待して結びとします。

荒高生の活躍

○卓球部

県高校総体 女子シングルス 松野きらら 出場
特別国体山形県予選会 女子シングルス 松野きらら 出場
全日本卓球選手権山形県大会 女子シングルス 土屋志織 出場

○テニス部

地区高校総体 男子ダブルス 第一位 小口嘉希 児玉凌汰（県大会出場）
女子シングルス 第一位 小関理那（県大会出場）
県高校総体 男子ダブルス 小口嘉希 児玉凌汰 出場
女子シングルス 小関理那 出場

○吹奏楽部

吹奏楽コンクール山形県大会 高校小編成の部 銅賞

○総合文化部囲碁班

全国囲碁選手権大会山形県大会 女子個人 第二位 安久津春加（全国大会出場）
全国高総文祭囲碁大会 安久津春加 出場（県代表チーム）
第三位 打田 蓮

女子個人 第二位 安久津春加（東北大会出場）
高文連賞 安久津春加

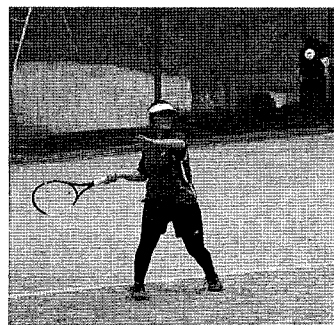
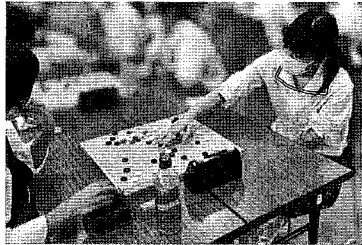
東北高校囲碁選手権 女子個人 安久津春加 出場

○総合文化部美術班

県高校美術展 努力賞 油彩画 井上知寿

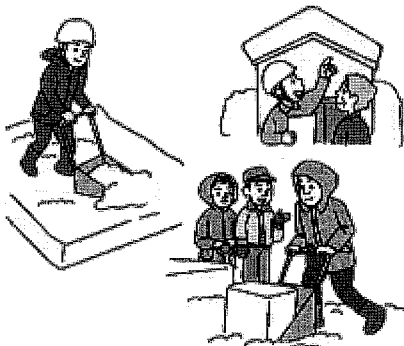
○各種コンクールなど

西置賜地区英語弁論大会 高校の部 第一位 佐藤優太（県大会出場）
県英語弁論大会 高校の部 第五位 佐藤優太



令和5年度卒業生 同窓会評議員名簿

地区名	氏 名
白鷹東地区	松野 きらら
白鷹西地区	佐藤 優太
長井他地区	井上 大輔
関 東 支 部	佐藤 法彦



令和5年度卒業生進路状況

令和6年1月23日現在

進路先			人数			割合		前年度実績	
			男子	女子	合計	部門毎	全体	人数	全体%
就職	管内	白鷹	3	2	5	45.5%	23.8%	2	9.5%
		長井	2	2	4	36.4%	19.0%	4	19.0%
		飯豊	0	0	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
		管内計	5	4	9	81.8%	42.9%	6	28.6%
	その他県内		1	0	1	9.1%	4.8%	3	14.3%
	県外		0	0	0	0.0%	0.0%	2	9.5%
	公務員		1	0	1	9.1%	4.8%	0	0.0%
就職計			7	4	11	100.0%	52.4%	11	52.4%
進学	大学		1	2	3	42.9%	14.3%	1	4.8%
	短期大学		1	0	1	14.3%	4.8%	3	14.3%
	高専・医技専		0	0	0	0.0%	0.0%	2	9.5%
	産技短等		0	0	0	0.0%	0.0%	1	4.8%
	専門学校等		0	3	3	42.9%	14.3%	3	14.3%
進学計			2	5	7	100.0%	33.3%	10	47.6%
その他・未定			1	2	3		14.3%	0	0.0%
卒業者数			10	11	21		100.0%	21	100.0%

あとがき

令和5年度の新入生（現1年生）は40人。学校内はこれまで以上に活気があふれ、地域活動や経済活動などで活性化につながっているものと期待します。荒砥高校存続の一番は「生徒確保」で、この状況の継続を願うばかりです。

さて、今年の冬は、降雪、積雪が少ないシーズンで、除雪ボランティアの出番がありませんでした。このボランティア活動には、荒高生の協力が不可欠で、「除雪」に限らず、荒高生のボランティア活動は、地域にとって心強い存在です。また、地域のつながりを体験する機会になり、社会人の一員であるという意識の醸成にもつながるものと期待します。

（松野）